

目次

第10章 有機溶剤

- 1 有機溶剤の種類、用途など……………2
- 2 有機溶剤の性質と毒性……………9
- 3 有機溶剤と環境汚染……………19
- 4 いくつかの有機溶剤について……………25
- 5 シンナーなど……………36
- 6 有機溶剤をめぐる二つの疑問……………47

第11章 PCBと関連化合物

- 1 中毒の歴史……………52

第12章 フタル酸エステル

2	P C Bの種類、用途など	60
3	環境中のP C B	62
4	P C Bの毒性	72
5	P C Bと関係の深い物質	90
6	P C Bなどの複合作用	107
7	行政的対策	125
8	P C Bをめぐる三つの疑問	129
フタル酸エステル		
1	中毒の歴史	140
2	フタル酸エステルの種類、用途など	144
3	環境中のフタル酸エステル	148
4	フタル酸エステルの毒性	155
5	フタル酸エステルをめぐる行なわれた議論	177

第13章 その他の有機化合物

1	ジクロルベンジジン (3、3'-ジクロルベンジジン)	188
	——発がん物質——	
2	α -ナフチルアミン	188
	——膀胱がん——	
3	オルトトリジン (3、3'-ジメチルベンジジン)	189
	——耳下腺腫瘍——	
4	ジアニシジン (3、3'-ジメトキシベンジジン)	190
5	ベンゾトリクロリド	190
	——肺がん、鼻腔がん——	
6	アクリルアミド	191
	——神経障害——	
7	アクリロニトリル	193
	——シアン化水素の発生——	
8	エチレンイミン	193
	——粘膜刺激——	

9	塩化ビニール……………	194
	——肝血管肉腫、骨端溶解——	
10	塩化ビニリデン……………	202
	——発がん作用?——	
11	オーラミン……………	203
	——膀胱がん——	
12	オルト・フタロジニトリル……………	204
	(フタロニトリル、オルト・ジシアノベンゼン)	
	——てんかん様発作——	
13	クロロメチル・メチルエーテル (C M M E)……………	205
	——発がん作用——	
14	コールタール……………	206
	——肺がんなど——	
15	3、3'、4、4'ジクロロ、4'ジシアミノジフェニルメタン……………	208
	——発がん物質——	
16	臭化メチル (メチルブロマイド)……………	209
	——神経毒性——	

17	トリレンジイソシアネート (TDI)	210
	——皮膚、粘膜刺激——	
18	ニトログリコール	211
	——狭心症様発作——	
19	パラジメチルアミノアゾベンゼン (DAB)	213
	——発がん物質——	
20	パラニトロクロロルベンゼン	214
	——貧血——	
21	β -プロピオラクトン	215
	——発がん作用——	
22	マゼンタ (フクシン)	215
	——膀胱がん——	
23	ベンジジン系色素	216
24	よう化メチル	217
	——中枢神経障害——	
25	硫酸ジメチル	218
	——肺水腫——	

26 アルデヒド類……………218
 — 皮膚、粘膜刺激 —

第14章 プロメテウスの火

— 環境毒性学へのアプローチ —

- 1 実害がでてからではおそい……………226
 2 完全な科学的結論がでるまで待てない……………249
 3 環境毒性学の必要性……………258
 4 プロメテウスの火……………264

索引……………
 卷末……………

